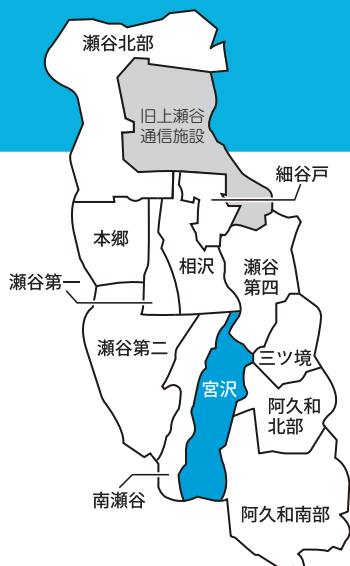


宮沢地区



1 地区の概況

- ◆北は厚木街道に南は泉区に接し、東に和泉川が流れる水と緑に囲まれた風光明媚な約3.8kmの細長い短冊形の地域。宮沢1丁目から宮沢4丁目全域と二ツ橋町・南瀬谷1・2丁目の一部を含めた、11の自治会・町内会の構成で宮沢連合自治会を運営している。
- ◆一戸建ての住宅が多く、持ち家率も高く、居住年数20年以上が多く定住率が高い。
- ◆人口は9,270人と減少している。高齢化率は26.9%と年々増加している(令和2年9月末)。
町内会・自治会加入世帯は2,806世帯を数える(令和3年4月末)。

2 第1・2・3期で取り組んだ主な活動や事業

- ◆**災害対策**では、防災拠点実行委員会を設置して「防災拠点避難所開設マニュアル書」を実情に合わせて改訂し、避難訓練を行い、各町内会別の初期消火訓練等も行った。
- ◆**地域での健康づくり**では、シニア世代を対象に介護予防や認知症予防等の講座を開催。またラジオ体操サークルやウォーキングイベントを充実。異世代交流カローリング大会も好評であった。
- ◆**地域活動と見守り体制の充実**では、全町内会館でサロンを開催した。また、早朝防犯清掃パトロール、長期休みの中学生～大学生ボランティア、小学生を含めた家族の公園清掃の参加等、若い世代の活躍は地域を明るくしている。
- ◆**誰にもやさしいまちづくり**では、親しみやすい公園の愛称のプレートを設置。サマーフェスタの実施等誰もが参加出来るイベントを開催した。全世帯アンケートに基づいて移動販売を開催した。
- ◆**活動拠点の確保**では、公共用地を活用した地域活動拠点の建設で、子どもや高齢者・障害者の居場所づくりを今後の課題として関係機関等に働きかける。

3 第4期計画に向けての課題

- ◆地域づくり塾の研修で学び、全世帯対象の「福祉アンケート」を実施。そこで移動販売の必要性が明らかになり、試行錯誤しながら移動販売を実施できた。地域住民誰もが暮らしやすいまちづくりが更に求められている。
- ◆アンケート実施の中、一定程度ボランティアの確保ができた。見守りのネットワーク化が進んでいるが、世代交代に向けた新たな人材育成が重要である。

4 推進母体

宮沢まちづくり推進委員会

宮沢連合自治会・宮沢地区社会福祉協議会・宮沢地区民生委員児童委員協議会の三者で設置する

目標 水と緑のまちづくり宮沢・暮らしやすい宮沢

お互いさまで支え合うまちづくり・健康でいきいきと暮らせるまちづくり・
誰もが安心して活躍できるまちづくりを宮沢地域のみなさんで目指しましょう！

1 防災・減災対策のまちづくり

- ・ 防災拠点実行委員会を中心に障害者や要援護者を含めた防災訓練の充実
- ・ 認知症や障害の有無や国籍や性別に分け隔てなく対応する防災マニュアルの作成
- ・ 向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりを目指した「ご近所カード」等の作成
- ・ 初期消火訓練や救急救命訓練等身近なエリア（町内会・自治会）で防災訓練の実施

2 地域での健康長寿のまちづくり

- ・ 講演会や実技を含めた健康づくりの場を地域交流の機会としても企画
- ・ 高齢者と次世代を担う小学生との軽スポーツを通じて異世代交流
- ・ "水と緑のまちづくり宮沢" を生かした誰でも参加できるイベント

3 地域活動とお互いさまで見守り合い・助け合い風土のまちづくり

- ・ 高齢者から子どもまで、様々な方々が優しく集える居場所づくり
- ・ 顔の見える関係づくりの推進と担い手の確保と育成を目指した風土づくり
- ・ 各サロン活動との連携と情報共有による見守り体制の充実

4 誰にもやさしいまちづくり

- ・ 公園の愛称を生かしたイベント等を通じて、宮沢の水と緑と自然をアピール
- ・ 住んでいて良かったと言える誰にも暮らしやすい安全・安心なまちづくりを追求
- ・ 買い物が不便な地域での「移動販売」を継続
- ・ 空き家状況の把握と福祉の里としての居場所づくり等活用方法を検討
- ・ 関係機関と連携して、困りごとを抱えている方々の相談への対応

5 活動拠点のあるまちづくり

- ・ プール公園の管理棟の改修時や公共用地を活用した活動拠点の確保
- ・ 宮沢保育園の改修工事に合わせて、地域に提供できる会議室設置を求める

